

# 「県立川崎図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

## 【分析の視点】

神奈川県立川崎図書館にはどのような利用者がいるのか？

### 1 回答者について

#### 1) 性別

- 「男性」190人（68.3%）、「女性」79人（28.4%）であり、移転前（2016年、2015年）と比較して女性の割合が約15ポイント増加した。また移転前と比較して無回答が約10ポイント減少した。（第10表・第30図）

#### 2) 年代

- 「19歳以下」が67人（24.1%）で最も多く、「30代」が20人（7.2%）で最も少ない。（第11表・第31図）
- 移転前（2016年、2015年）と比較して19歳以下が約19ポイント増加している。移転による影響なのかアンケート実施時期による影響なのか判別できない。（第11表・第31図）
- 男女別にみると、女性は46.8%が19歳以下であるが、男性は40代から60代が56.3%であり、女性は若年層が多く、男性は中高年層が多いと言える。（第11表・第32図）

#### 3) 職業

- 「会社員・公務員」102人（36.7%）が最も多く、次に「学生」74人（26.6%）が多い。2016年、2015年は「会社員」「無職」の順に多かったので、移転後は学生の利用が増えている。（第12表・第33図）
- 「会社員・公務員」のうち約2割がKSP内在勤者である。（第12表）
- 男性の42.1%が「会社員・公務員」であり、女性の50.6%が「学生」である。（第12表・第34図）
- 男女の回答率の差が倍以上あった項目は、「自営業」（男性8.9%、女性2.5%）、「主婦・主夫」（男性0%、女性7.6%）、「無職」（男性19.5%、女性3.8%）、学生（男性17.4%、女性50.6%）、「その他」（男性5.3%、女性1.3%）である。（第12表・第34図）

#### 4) 住所

- 県内在住者が全体の82%である。県内の内訳では川崎市在住者が全体の64.4%であり、県立川崎図書館所在地である高津区在住者は全体の40.3%である。県内在住者と川崎市在住者は2015年、2016年と比較してそれぞれ約10ポイント増加しているが、無回答の減少が影響している可能性がある。（第13表・第35図）
- 男女の回答率の差が倍以上あった項目は、「(県内)他市町村」（男性7.4%、女性2.5%）、「無回答」（男性4.2%、女性10.1%）である。（第13表・第36図）

## 2 利用頻度について

- 利用頻度は「月に数回」(32.7%)が最も多く、2015年、2016年と比較し利用頻度は減少傾向にある。(第1表・第1図・第2図)
- 男女の回答率に顕著な差は見られない。(第1表・第3図)

## 3 来館目的について

- 「個人的な利用(趣味・自習)」(61.2%)が最も多いが、2015年、2016年の「個人的な調べ物」「趣味・教養」「自習」を1つの項目として表現した結果だと考えられる。(第2表・第4図・第5図)
- 「仕事上の利用」(20.1%)は2015年・2016年から約5ポイント減少した。(第2表・第4図・第5図)
- 利用しているコンテンツでは「図書」(31.3%)が最も多く、「専門誌・学会誌・新聞」(12.2%)、「電子ジャーナル・データベースの利用」(2.5%)、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVDの利用」(0.7%)と続いている。(第2表・第4図)
- 利用しているサービスでは「座席の利用(自習・休憩)」(16.5%)が最も多く、「調査・相談」(2.2%)、「展示・講座」(2.2%)と続いている。(第2表・第4図)
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「仕事上の利用」(男性25.3%、女性8.9%)、「専門誌・学会誌・新聞の利用」(男性16.8%、女性2.5%)、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVDの利用」(男性0.5%、女性1.3%)、「調査・相談」(男性2.6%、女性1.3%)、「展示・講座」(男性1.6%、女性3.8%)である。(第2表・第6図)

## 4 県立川崎図書館の選択理由について

- 「静かな環境だから」(46.4%)が最も多く選択された。(第3表・第7図)
- 「専門的な資料があるから」(44.2%)は2番目に多く選択された。男性の52.6%、女性の22.8%が選択しており男女の選択率に差が見られた。(第3表・第9図)

## 5 利用場所について

- 「書架」(47.1%)、「個別閲覧席(キャレル席)」(29.9%)、「ソファ席」(11.5%)が主に選択されている。(第4表・第10図)
- 回答者の選択が1割未満だった場所は「カンファレンスルーム」(4.0%)、「電子ジャーナル・データベース席」(3.6%)、「知財スポット」(2.9%)、「ディスカッションルーム」(2.2%)、「ものづくりギャラリー(展示)」(1.8%)である。なお、調査期間中に開催された講演会は「パワーアシスト技術の開発」(講師：山本圭治郎氏、内田享子氏、参加者24名)、同時開催の「ロボット体験キャラバン 生活支援ロボットがやって来る！」である。実施されていた企画展示は「人とロボットの調和」である。(第4表・第10図)
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「知財スポット」(男性2.1%、女性5.1%)、「ディスカッションルーム」(男性1.1%、女性5.1%)、「カンファレンスルーム」(男性2.6%、女性6.3%)、「ものづくりギャラリー(展示)」(男性1.1%、女性3.8%)である。(第4表・第11図)
- 書架で最も多く利用されていた資料の種類は「専門図書」(18.3%)であり、2番目は

「専門誌・学会誌」(13.3%)である。その他「特許・規格」「社史」「ものづくり入門」「その他」の選択率は0.7%から4.7%の間である。「特許・規格」と「社史」の選択率は2016年度から0.5%以内の変化であった。(第4表・第12図)

- 書架で利用されていた資料の種類について、男女の選択率の差が倍以上あった項目は「専門誌・学会誌」(男性17.9%、女性3.8%)、「特許・規格」(男性3.2%、女性0%)、「ものづくり入門」(男性0%、女性2.5%)である。(第4表・第13図)

## 6 利用時間について

- 「1時間以内」(38.1%)が最も多く、「1～2時間」(27.3%)、「3～4時間」(22.3%)と続く。(第5表)
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「半日以上」(男性13.7%、女性1.3%)である。(第5表・第15図)

## 7 利用の成果(アウトカム)について

- 選択率の上位4項目は、「知識・教養が深まった」(35.3%)、「研究や調べものが進んだ」(29.9%)、「仕事に役立った」(25.2%)、「余暇を有意義に過ごせた」(23.7%)である。このことは「ものづくり技術を支える機能」に特化した専門図書館としての役割を果せていると考えられる。(第6表)
- 男性に最も多く選択された項目は「研究や調べものが進んだ」(34.7%)、「知識・教養が深まった」(34.7%)であり、女性に最も多く選択された項目は「知識・教養が深まった」(36.7%)である。(第6表・第16図)

## 8 満足度について

- 「全般的に見た県立川崎図書館の満足度」は「満足」(64.3%)と「どちらかといえば満足」(30.4%)を合計すると94.7%となる。中央値も4を示しており、利用された方は現状に満足している傾向にある。(第7表・第17図)

※以下、「全般的に見た県立川崎図書館の満足度」を除いた9項目の分析結果を示す。

- 「満足」が最も多く選択された項目は「施設・設備」(66.8%)である。「どちらかといえば満足」(27.9%)との合計でも最も満足度の高い項目であった。移転により施設・設備が新しくなったことが影響していると考えられる。次点は「職員の対応」である。(第7表・第17図)
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が7割を超えた項目は、「開館日・開館時間」(82.3%)、「図書」(72.0%)の2項目である。(第7表・第17図)
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が5割未満の項目は、「パンフレット・チラシ」(49.6%)、「電子ジャーナル・データベース」(44.2%)、「調査・相談」(44.1%)、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」(30.2%)の4項目である。(第7表・第17図)
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の選択率が低い項目を見ると、必ずしも「不満」と「どちらかといえば不満」の選択率が高いわけではない。それよりも「わからない」の選択率が高い傾向(50%前後)にある。満足度の低い項目は、認知度が低い、または利用経験がないため評価できないことを表していると考えられる。(第7表・第17図)

- 「わからない」が5割を超えた項目は「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」(67.2%)、「調査・相談」(55.1%)、「電子ジャーナル・データベース」(52.5%)の3項目である。(第7表・第17図)
- 「不満」が最も多く選択された項目は「開館日・開館時間」(7.3%)である。「どちらかといえば不満」(8.8%)との合計でも最も満足度の高い項目であった。移転に伴う開館日の変更の影響があると考えられる。次点は「図書」である。(第7表・第17図)
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が7割を超えた2項目(「開館日・開館時間」「図書」)は、「不満」と「どちらかといえば不満」の合計も高い項目であり、14%以上を示していた。(第7表・第17図)
- 「満足」の選択率は10項目中8項目で女性が高く、同率は「専門誌・学会誌・新聞」、男性の方が高いのは「職員の対応」であった。「不満」の選択率は10項目中4項目(「施設・設備」「専門誌・学会誌・新聞」「電子ジャーナル・データベース」「調査・相談」)で男性が高く、女性の方が高いのは「開館日・開館時間」「図書」であった。(第8表・第9表・第18図・第19図)
- 男性の回答の中央値は、3が6項目、4が4項目である。男性において「満足」が5割を超えた項目は、「職員の対応」(66.1%)、「施設・設備」(62.1%)の2項目である。(第8表・第18図)
- 女性の回答の中央値は、3が1項目、4が9項目である。女性において「満足」が5割を超えた項目は、「施設・設備」(77.6%)、「職員の対応」(64.0%)、「開館日・開館時間」(51.3%)の3項目である。(第9表・第19図)